

まきがはらかんきょうほぜんかつどうそしき

牧ヶ原環境保全活動組織（中川村）

・組織の活動面積	A=	10	ha
・組織の構成員数	約	88	人

組織形態	農地維持 ■	資源向上(共同) ■	資源向上(長寿命化) ■
取組開始年度	平成27年～	平成27年～	平成27年～

構成員	農業者、地域住民、耕作者組合、学校保護者会
-----	-----------------------

組織の概要

- ・本組織の対象農地は、台地の上であり、天竜川からの揚水により水田を潤している。古来は一面の桑畑であったが、揚水により水田や畑などの農作物生産地帯となり、現在は学校や村文化施設、住宅団地が近隣にできるなど、多くの人が行き交う耕作地帯となっている。
- ・近隣の中川西小学校とは、学校田の提供や、遊休農地対策としてひまわりの植栽などによる連携を行っている。これに併せて、揚水の歴史や仕組みなどの学習を共に進めている。

学校田を中心とした子どもたちとの交流と学習

〔学校田での交流〕

学校田での稲刈り作業では、組織構成員の指導により手刈りによる稲刈りの方法を指導した。

最近の大規模稲作化により殆どの子どもたちは手刈りによる稲刈りの経験が無く、初めての体験に夢中になって作業を行いました。

また、水田地帯の広がる牧ヶ原台地に、天竜川からの揚水により、水をくまなく配水する仕組みと歴史を学びました。(写真:右)



〔遊休農地へのひまわり植栽〕

対象農地の遊休農地化を防ぐことと併せて、子どもたちと一緒にひまわりの栽培による、植物生育の学習を行いました。

種まきから草刈などの管理、収穫や種取り、そしてひまわり油の搾油などを学び、生物の循環を肌で体験しました。(写真左上、上、左)(新聞記事は収穫の様子 平成28年8月25日付け長野日報)



長野日報 2016年(平成28) 8月25日

中川 搾油用ヒマワリの種 中川西小3年生収穫

片桐保育園児が手伝い

中川村中川西小学校の3年生は今年5月、地元の小規模片桐保育園の片桐園長(片桐秀夫)と、近くの畑で搾油用ヒマワリの種を収穫した。作業は3年生が花をなす切取り、園児が種を抜き、種を500gほどに選別し、乾燥させた。種は日陰で乾燥させた。その後、村内各地で栽培した種と共に富士見町の搾油所へ運ばれ、油を搾ることになった。

児童はかま上手に使って、ヒマワリの花を取り取った。ついで、みんなうれしそうに種を取って乾燥しやすさを確かめ、自分たちの顔をいよに並べた。種は夏の暑

大きく成長したヒマワリの花を収穫する児童